

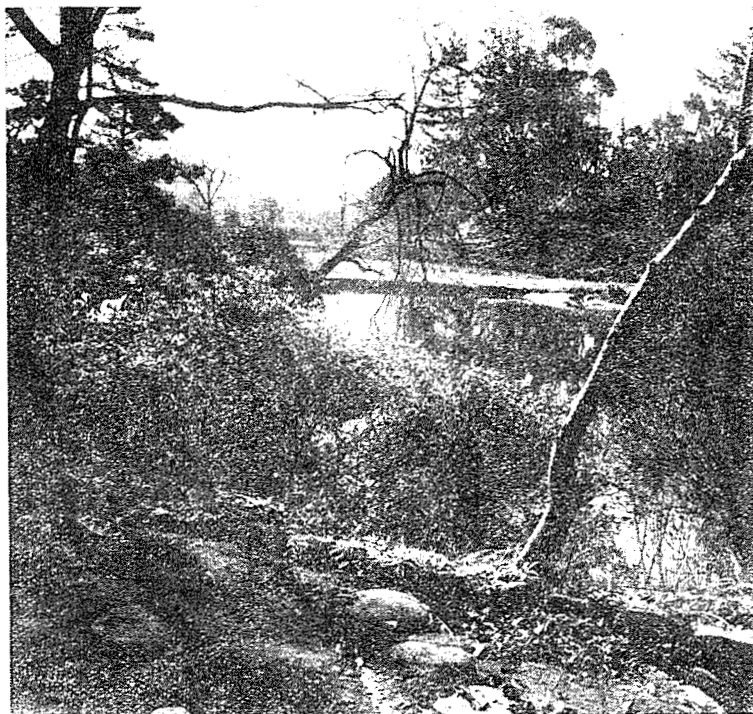
THE KANSAI UNIVERSITY BULLETIN

Osaka, January 15th, 1951. —No. 236

關西大學學報

第 2 3 6 號

昭和 2 6 年 1 月



大學外苑の點景

關西大學學報局

大學外苑に寄せて

新たに本学の有となつた外苑（元千里山遊園地）は、大学の南に位し三万坪の廣きに及ぶ。その丘陵は陽に向ひ四時人を娛ませる自然の美を包蔵してゐる。南麓より中陵にかけては櫻樹連なり、春信至れば萬葉の櫻雲は諸人を交々此処に招き寄せ、春光の美に酔はせて去り難くさせるであらう。中陵の台には君が代蘭が恰かも掌狀の水盤より噴き出づる噴水の珠の如く、白い花群を壺頭に飾り匂はす。その連鎖の間を中陵の頂に向つてつゞく二條の道の兩側には花壇が設けられて、百花は互ひに英を競つて目を愉しませ、この二條の道は分れて頂の芝草の地を環る。こゝに仰臥すれば、芝毯は柔かに背を包み、千彩萬華の芳馨は東風に從つて漂ひ來り、目を蒼穹に遣れば暖光燦々として零り注ぎ、春霞たなびき高原に在るを想はせるであらう。またこゝに佇つて南面すれば、右に近く千里山住宅台地の臺榭を一目の中に入れ、遠く東大阪の街区の重疊連綿とつゞくの一望することが出来る。中陵より高陵に及ぶ道の傍には夾竹桃多く、盛夏に紅花を綠樹の間に賑はす。高陵に至れば針葉樹闊葉樹共に茂し、頂の六角展望台に立つて北面すれば、翠綠の間より彼方の丘には大学院、法文学舎、図書館などの殿堂が並び、輪奐の美をなしてゐるのが見える。高陵の北隅は松柏亭々として聳え、松嶺梢を渡り松黄を頭上に降らす。六角展望台を下つて西陵に向ふ間の低地には外苑の心を象徴するが如く閑かな一池があり、四時松翠を映し、秋は四周の錦繡を映す。岩の間よりは細流落ちて、潺湲の夏もこゝに在れば、涼

蔭深く炎天を忘れさせる。池に架けたる橋を渡り緑間を登れば一亭があつて、菊花錦楓の候を娛しませる。道を更に奥にとれば、こゝは経商学舎を眼下に見、東に展げ、中秋の夜の缺を満たすに足りる。丘上の道を辿つて西陵に及べば、斜面急にして西方への眺望に便である。西陵にはつゞく多く、陽春紅白に咲き乱れる。外苑内には廣き運動場二つあり、春秋二季にはこゝに各種の競技が催されて、市民老幼男女の嬉々として興ずる声が聞えるであらう。また野外劇場に勉学の勞、生活の苦を忘れて文化の馨高い夕を過すことが出来るであらう。

学生は学舎をはなれて、この苑に友と打ち運立つて、或時は頭を休めて自然に還り、或時は靜かに思索に耽り、或時は讀書三昧に時を過し、或時は學を忘れて笑ひ興ずることが出来る、こゝは学生の心身を健全にし、豊かな教養を生み出す泉となるであらう。

市民は暇があれば、大学に親しみ近づき、大学の文化的体育的の施設や催しを学生と共に愉しむであらう。

外苑の意義は、從來大学に対して感じてゐた一般市民の疎遠を退け、市民が進んで大学の地に出入すること喜び、これを市民がその生活の愉しみの一節とするやうになることである。

やがて外苑は大学と市民とを結ぶ意義深い橋として、明日の時代に他に先んじて市民教育の実体を示す世界となるであらう。

第二三六号 目次

大學外苑に寄せて

ワーズワース……………進藤浩二郎(一)

チャールズ・ワーズワース記念座談会……………(二)

ジョーサーの世界……………廣瀬捨三(四)

企業組合とその課題……………松原藤由(五)

学内報……………(七)

臨時協議員会開催……………文学部東洋文学科増設……………山本博士英文大著刊行……………研究室及大学本部建設着工……………國文学講演会開催……………昨年中の内外よりの講演者……………人事異動……………教授研究出張……………(八)

学生……………(八)

校友……………(一〇)

各支部会……………職域名簿抄(三)

統 校友の面影(一)……………(三)

フレイザーの講演……………M・H(三)

英詩人ブランドン氏の書翰……………T・M(四)

関西大学図書館新着洋書目録(IV)……………(五)

関西大学「拡充資金」募集……………(一六)

関西大学概況

ワーズワース

教授 進藤 浩二 郎

ワーズワースは先づ自然の詩人であつた。その異常な感覚力により彼は自然の姿そのものを深く愛しその魅力を悦び貪りつゝ、対象である自然のうちに精神的生命の在ることを直観した。更にか様な生命を動かすところの「落日の光に、もり上る大洋に、動く風に、碧い空に」流れる血液が、人間の心にも流れ入り一切のものが相ともに活動する時、自然は彼の知性の錨となり徳性の核心となる。一方またこの万有の生命力は更により高い何ものかの永遠なる精神と考へられ、それから興へられた人間の魂はそのイマジネーションによつて、自然界にこの精神をみとめそこから力を得てモータリテイの殻を破り、瞬時に永遠の世界に達する。人間の経験はこのイマジネーションを強くし豊かにする。それは破らるべくして破る力を興へるものである。そこで人は人生における愛と悦びと恐れとによつて、一輪の花にも万斛の涙も及ばぬ深い思ひを得るのである。ワーズワースはこのいはば外からの力から内よりの力へと、前者の失はれるのを補う様に移つて行つたのであるが、彼の本領はあくまで自然をシンボルではなくリアリティとすることに満足し、現在に住し自然はそのまゝに莊嚴であると観ずるところにあつた。實在に徹し更にそれを貫く直観の實在との分離を認めなかつた。

以上のことから、彼の詩には常に自然が解釈されているとも云はれる様に、そこには自然の姿とともに自然の心、更に人間の心とのつながりがうたはれる。然し彼の自然についての報告は全く眞実であり、彼は「眼を対象にあてゝ」書き自然自身の筆を揮つた。又内面的なものを離れて事物の魅力を感ぜ、むしろ尊敬を以てその相貌を写した。彼の詩に具體的なものゝ豊かな所以である。

次にワーズワースは人間をみる時にもそれを自然の

一環として見た。彼が田園の人々を描きことに小兒老衰者貧窮者等を好んでうたふのも彼等が自然に近い人々であつて自然な人間性を容易に示すからである。彼はそれらの質朴單純な人間を自然に對すると同じ眞実な眼で眺め、人情の機微をとらへて神秘と驚異を感じる。小兒の無垢な心において特にさうであつた。かゝる対象の選取にはまた彼の心を人間に向けさせた大革命の思想的影響、即ち彼が終生の信念となつた人間の尊貴性が強調されてゐる。一方大いなる万有の自由にもとづく根元的な愛情と義務とに強い悦びを感じ、又人はかゝる自由に通ずる彼の内にある力によつて人生の苦悩を超えるのであるとするオプティミズムに達した。こゝに彼の自然観と人生観との結びつきが認められるであらう。

ワーズワースがあらはれてから、ハーバーの言の如く、新しい感覚力が目覚め新しい感情の動きが認められた。ひろく人間性一般への興味が高まりその意味を深めた。自然そのものがより廣い視野とより自由な探究心で見られ、從來顧みられなかつた多くの対象が見事な倫理的美的價值を帯びて來た。詩と人生との間に活氣ある連帶感が創り出され、詩は之迄にもまして経験から湧き出で行為に關聯を持つことになつた。加ふるに純粹にして汚されぬ、より簡素な形式によつて清新な詩風が樹立され、より簡素な形式によつて詩はより多数の聴衆に訴へることになり、しかも却つて詩はよりすぐれたデリカシーを具へるに至り、そして「詩人」の性格が高められたのである。多くの論議を起したワーズワースの詩論の根本精神はかくして見事な成果を収めた。アーノルドが彼の詩の粹を集め之こそシェイクスピア、ミルトンに次ぐ大詩人の作なりとしたのも不当ではあるまい。

ワーズワースは一七七〇年に生れた。北国の人で家は富裕でなく幼くして孤兒となつた。彼は質素で窮乏生活に耐へ又孤獨狹介の風があつた。風光に恵まれた湖畔地方の中学に學んだことは彼の自然觀の素地を作つた。ケンブリッヅ大学に入学してから詩人たる天職を自覺し第一作を書いたのもこの地であつた。それ以外には非凡な事もなくつたが最後の休暇に友人とスイスへ徒歩旅行を試みた。一七九一年に大学を卒業しその年の終りに再び大陸に渡りパリを経てオルレアンに赴き、約一年此の地とプロワに滞在して九二年の秋帰国した。此の間革命派の人々と親しく交り革命の思想を鼓舞され深く共鳴した。一方自家の娘がアネット・ダロンなる愛人をえたが正式に結婚しないうちに帰国したあと間もなく娘カロリンが生れた。帰国の理由には詩集出版、結婚の相談、ジャコバン派の圧迫などあげられるが、何れにしても英佛開戦により其後十年渡佛の機を得なかつた。やがてロベスピエールはたおれたが佛軍は国外に進撃し、英國政府は国内の革命派を弾圧した。この間ワーズワースは心身共に彷徨時代であつた。九五年に西南部の山間に妹ドロシーと共に居を構へ、コルリツヂとの交際もはじまつたドロシーは一つ年下であるがこの後一生未婚で足と同居した。觀察力と感受性にのみ自然を熱愛すること足にまさるものがあつた。コルリツヂと共にワーズワースを大成させた功は大きい。一八〇二年に新妻メアリーを娶に定めた湖畔の家に迎へたが、その直前に妹とカロリーに渡りアネットと娘カロリンに面会した。更に約二十年後に彼は妻と妹をつれぱりアネットと眞に結婚したカロリンに最後の対面をしてゐる。一七九八年の「抒情民謡集」から一八〇二年の詩集までの十年間が彼の詩作の山であり多くの代表的傑作が詩論と共に発表されたが、酷評につぐ酷評をうけた。その後彼の詩心が鈍つて來たことは大体定評であるが、名声は却つて徐々に高まり一八三九年にオックスフォードで学位を受け四三年には桂冠詩人に任じられ、大詩人又哲人賢者として半ば偶像的崇拜をうけつゝ病弱の妹健在なる妻と一子を殘して八十才にして致した。墓は終焉の地ライダルの教会にある。

チヨーサー

ワーズワース

記念座談會

期 日 昭和二十五年十二月十三日

場 所 千里山大学院

出席者

宮島理事長 司會者堀教授 広瀬教授
梶原教授 進藤教授 八島教授
広岡教授 (発言順)

宮島 今年ワーズワースの歿後百年に当るので、斯る記念の行事をもつと大学で盛大にやつて、學生に貴い経験を在學中に與える様にせねばならない。

司會者堀 我々英文科と密接な關係のあるワーズワースとチヨーサーとの記念會を學部局の方で持つて下さつたことを仕合せであると思う。チヨーサーは英詩の父だと言われ、ワーズワースも英文學の榮光だと言われているし、またワーズワースはチヨーサーが好きであつたから、二人の記念會をするのは決して木に竹をついだものではないと思う。そこで先ず中世のチヨーサーの生きていた時代の宗教界の事情というようなのを……

廣瀬 カンタベリー物語の中の宗教家を眺めて見ると、托鉢僧などは放蕩無頼な姿に描かれているが、牧師だけは誠実な僧として現わされている。尼も出て来る

が鼠が鼠取りに掛けられるのを見ても涙を流す様な女らしい人間に書かれているこれに比し、ラングランド、ピアーズ、ブラグーマンなどは宗教界を惡罵している。

堀 チヨーサーは宗教界をも微笑を以て迎えており、宗教界の腐敗を知りつゝ反抗することもなく、信仰に凝る事も好まない人であつた。カンタベリーへお詣りする事が、話のフレイムになつてゐる事に依り、宗教界が当時盛であると共に墮落してゐた事も判るが、宗教の墮落というよりは、民間信仰と宗教との入り混つたものでしょう。

梶原 チヨーサーのは宗教を面白がつてからかつてゐるという風な所がある。廣瀬 チヨーサーは事物の自然の秩序だと言つていて、痛罵していない。梶原 モンテニユに近い処がある。

堀 信仰も人間の自然だと言うのでしよう。

廣瀬 アメリカのマンリーなどは、カンタベリー物語にもやはりモデルがあると考へている。チヨーサーはイタリアに二回行つてゐるが、ボツカチオ自体を知らなかつたらしい。「トロイラスとクレシダ」はボツカチオの作品から採つたのであるが、デカメロンも直接知らなかつたらしい。たゞ誰かからそういう話をきいてはいたのでしようが……彼はクレシダを洩やかな女として書いている。

梶原 シェクスピアのはクレシダをかなり淫奔的に書いているが、クレシダにはあゝいう二つの見方があるのではありません。チヨーサーは當時に於ては特別な人であつたのでしよう。

廣瀬 阿部知二が芥川を早く生れた人だと言つてゐるが、チヨーサーもやはり當時では特別な、一時代早く生れたという様な人であつた……。

堀 詩人という者は詩を吟ずる事が、皆の期待に應える事だと思つてゐる。

進藤 ワーズワースはよく自詩を突然大声で吟じて他人にきかせたそう。エマソンが彼に逢つた時にやはり詩を吟じたそうだが、エマソンはワーズワースが自分に敬意を拂つて吟じてくれたのだと思つて謹聴したと言つてゐる。

堀 ワーズワースの様に非常に人に判

易い詩を作らねばならぬと言う建前の人は、他人に自作詩を聞かせたのでしよう。

進藤 ワーズワースは詩の草稿は妻や妹に書かせてゐる。

宮島 処で、チヨーサーは現代英語の父だと言われているが、古典の知識があつたのだらうか。

廣瀬 ラテン語を読んでゐた。若い時にはフランス語をやつてゐる。

宮島 チヨーサーは學者ではなかつたのだらうが、近松なども學者ではないのに、いゝものを書いてゐる。画家でも詩人でも學校など大して行つてゐない者が多いそれでいて後世に遺る画を描いたり、天才的な詩を遺してゐるが、學問と芸術とはどんな關係にあるのだらう。

堀 オースドックスなのが學問の筋道でしよう。

廣瀬 學問などをやると空想力が制限されるのではないでしようか。

堀 横光利一がパンクチュエイションのなゐものを書いてゐるが、あれもジェイムス・ジョイスなどを一寸聞き嚙つたのだらう。あまり知り過ぎると空想力がなくなるので、少しだけ知つてゐる位の方が思ひ切つたものが書けるじやないでしようか……。

廣瀬 ミルトンがシェクスピアを称えた中にやはり同じ様なことを言つてゐる……

堀 チョーサーは一生あまり宮廷詩を書かなかつた……。チョーサーは第一期はフランス的、次にイタリア、そしてイングリッシュ。

梶原 当時英国では宮廷はフランス語、民衆はアングロサクソン語を話していた。廣瀬 一三六二年に議會で英語を話す様になつた。当時のジョン・ガワーと云う詩人は、フランス、ラテン、英の三国語で詩を書いている。

八鳥 チョーサーは先見の明があり、愛国的であつたと言える……。英国ほど國語をひどく叩かれた国もない。

堀 ワーズワースが詩の言葉を庶民の言葉にするというのは、次第に擡頭して來る民衆の力に対する感覚が彼を言語の上にも赴かしているのでしょうか。

進藤 民衆の力を感じてやつたというよりも、やはり革新的な清新なもの、そういうものもあるのではないか。然し北の地方の平民の性質がやはり相当にワーズワースに影響している。生活的にも思想的にも。……

廣岡 チョーサーはリアリストであり、彼は中世に対する近世的な先覚者であり、ワーズワースは革命者のであつた。ワーズワースの場合は文学上の用語として取り上げたというのでしょうか。

八鳥 ワーズワースはフランスへ行つてルツォーの思想的な影響を受けている。

進藤 クラブの様にディッケンズに出て來るようなものを扱つて詩を書いている者もいる。当時民衆に対する関心を持たせるものがあつたと思う。しかしそういうものは皆出來がよくない。これはワーズワースも同じである。クラブは學校へ行かずに苦勞している。そういう人の中



巡禮姿のチョーサー (エルズメア寫本より)

から詩人が出て來る。

宮島 ワーズワースはフランスに渡つて

いる期間に交友はなかつたのだらうか。進藤 文学的にはない、オルレアンにいた時に革命派の交友がある。大いに革命的な精神を與えた人がある。

堀 当時のヨーロッパは全般にルツォーの革命的思想を強くうけている。ワ

ーズワースは彼の政治上の進歩的な思想をフランス革命以後は一擲してつた。梶原 彼はフランスに於ける戀人のアンネット・ヴァロンに対する心は詩に書いていないのですね……

堀 妹は兄のワーズワースの結婚の時、は少し淋しかつたらしい。進藤 結婚の時、新郎は新婦の手を執らず、妹の手を執つて教會から歸つて來たそうだ。(笑声) それでもコールリッヂにはやはり兄よりも強い関心を持つていた。(笑声)

堀 ワーズワースは戀愛詩というものは殆ど書いていない。

堀 ワーズワースは大した讀書家ではなかつたらしい。

進藤 日記には妹が書いている。ワーズワースは手紙などはすべて焼いて了つた。

堀 日本人は一つ何かに徹底すればよいのだが。何も徹底していないという事にでも徹底してもよいのだが……。

堀 アンネットとワーズワースとの間のことは詳しくは判らないが、かなり熱があつたのではないでしようか。

堀 日本人は一つ何かに徹底すればよいのだが。何も徹底していないという事にでも徹底してはならないだろうか。チョーサーなども徹底しなかつた人であらう。

廣瀬 日記には妹が書いている。ワーズワースは手紙などはすべて焼いて了つた。

廣瀬 チョーサーは大作は皆中途でやめている。

堀 発見者はワーズワースにだけ関心をもつてやつたのではない

宮島 結論が判らなくなつたのだらう。人間が徹底すれば、神か獸かになる。徹底しないのがヒューマニストであらう……。

堀 こんな事はワーズワースの評価を

宮島 こういう会合はいくら聞いていても飽きないで、いつまでも聞いていたいのですが、それではきりがありませんし、かなり時間も晩になりましたから今夜はこのあたりで閉会ということにして頂きますしう。

進藤 彼の妻の事はワーズワースも詩に

進藤 彼の妻の事はワーズワースも詩に書いています。美人ではないなど(笑声)

堀 彼の妻の事はワーズワースも詩に

進藤 彼の妻の事はワーズワースも詩に書いています。美人ではないなど(笑声)

チヨーサーの世界

教授 広瀬 捨三

チヨーサー (Geoffrey Chaucer, ? 1340—1400) に関する今に残っている記録は年金を貰ったとか、王命でフランス、フランス、イタリアへ旅行したとか、裁判の証人として出廷したり、税関吏になつたり、王宮修理工事を委任されたり、テムズ河堤の補強工事監督の一人に命ぜられたり、追剥ぎに二度も公金を取られたり、林務官になつたというような公の記録であつて、詩人チヨーサーは出て来ない。彼を語るものはその作品にしくはない。

彼の「善女傳」(The Legend of Good Women)の冒頭に於て、「天国に歓喜あり、地獄に苦惱ありといくそたび人は身分に語つたことか。私もその通りと合点はするが、私は現世の佳人であるし、天国、地獄へ行つた人もなければ、その話を聞いたか、書いてあるのを読む外は他の方法では知り得ないことも亦よく承知している。誰が試みても証明出来ないではないか。」と云つてゐる。チヨーサーはダンテに親んでその型に倣つて「善女の宮」(The House of Fame)を書いた程であるが、到底三界遍歴の旅にのぼれる詩人ではなかつた。彼の足は決して大地を離れなかつた。嘗て一人の旅人もその境から歸つたことのない未知の国、死者の夥しい群の棲むあの地域は、まことに万葉歌人の慕ひた如く、山吹の立よそひたる山清水汲みに行かぬ道の知らなくであつて、チヨーサーは描かなかつた(なお *Al1108—1201, 2809—2816* 参照)。前述の「善女傳」の懐疑的な発端に續いて、しかし我々の知らないことだからといつて、そんなものは無かつたとは云い得ない。古人の見聞を記した書物こそ充分信用しなければならぬといふ。彼は讀書を好み、祭日でも本から自分を引離す娯樂は一つもないといふ(「善女傳」B-text, 29—35)。彼は決して書齋裡の人でなかつたことは、前記の公の記録で窺える。後

年までもチヨーサーは晝間の劇務から解放されると早速家へ歸つて、石の如く黙々と視力の霞むまで書物に眼を曝した(「善女の宮」652—658)。世俗的な仕事に暇もなく入手困難な写本時代に、かゝる書物への愛着を持つてゐたのである。彼は古今の物語を蒐めた本を六十冊程持つてゐた(「善女傳」A-text, 273—277)。「カンタベリ物語」(The Canterbury Tales)に出てくるオックスフォードの勤勉な学生も、外套や樂器を買いよりも、黒や赤の皮表装のアリストテレスの本を二十冊も枕頭に置くことを理想とし、人から買つた金は皆写本の購入に費した(*A 293—296, 299—300*)といふ。當時としてはチヨーサーの蔵書も多い方であろう。本の少ない代りに一度借りて讀んだり、聴いたりしたことは、現代人の想像以上によく暗記したものであろう。今も人の本を借る習慣が絶えないのは、未だこの写本時代の遺風が脱け切れぬのであろう。今では讀みたい本位自分で買えるし、入手出来ない本は人に借りてまで讀みたいとは思われない。一読した事はあるが、写本が手許にない場合、前後順序が顛倒したりすることはあり得ることで、「尼附き僧の物語」(Nuns' Priest' Tale)に於てキケロの「予言について」第一卷二十七章 (*De Divinatione*) から引用した二つの夢の話が、原文と逆の順序で話されているのも、こんな事情によるのであろう。當時は特に筆写専門の職業もあつて、その筆写生が間違ひだらけに写すものだから、流石のチヨーサーもたまにかねて、私の書いた通り写さないなら、お前の頭にくさが出来るといふ云々と云う詩を作つてゐる (*Chaucers' Wordes unto Adam, his Owne Scrivyn*)。前記のように所有の冊数が少ないといつても、写本のことだから、一冊でもかなりなものであろうし、同種の題目のものを色々本から蒐めて一冊に製本したものもあろう。これは

現存の写本にも見られることであるし、「カンタベリ物語」中の「バースの人妻の序」にも、このような抜萃集の写本の話が出てくる。これは聖書や聖デロームなどから婦人の愚口を集めた本で、いわば悪婦列傳一冊本で、夫の愛寵措かなかつたものだが、惜しくも夫婦喧嘩の後焼き捨てられたのである。チヨーサーに讀書を止めさせるのは、たゞ雛菊の咲く五月の春の野であつた。五月が來て小鳥の歌うのを聞くとは彼は本よさらりと戸外へ出る(「善女傳」A-text, 36—39)。五月の野の春景色の夢物語は彼の親んだフランスの「薔薇物語」(*Le Roman de la Rose*)に現われ、チヨーサー自身も繰返して用いた形式である。ヨーロッパ人が自然に親んだのは比較的近代からで、中世人は夕暮れの実しさを感じなかつたといわれる。獸脂蠟燭は同じ目方のビフテキの四倍の値段であつたから、彼等は早く寢床へもぐり込んだ。チヨーサーの描く自然は上記のような和やかな春景色であつて、これは「カンタベリ物語」をも含めた彼の作品の雰囲気ともいえよう。彼は春の野に草採みにと來し吾ぞ野をなつかしみ一夜宿にけると歌つた山部赤人そのまゝに、雛菊咲く春の野に眠ると、戀神キユピッド (Cupid) と雛菊の化身であるアルセステイリス (Alegis,ギリシヤ神話で夫の身代りに死のうとした婦人) が他に多数の戀神に仕えた婦人を引連れてチヨーサーの前に現われる。戀神はチヨーサーに己れに仕えた婦人達をこきおろした作品を書いたことをいたく責める。「トロイラスとクリゼイド」(*Troilus and Criseyde*) でトロイの王子トロイラスを裏切つたクリゼイドのことを歌い、「薔薇物語」を訳しては婦人嘲弄の筆を取つたと、キユピッドの御機嫌斜めてある。それをアルセステイリスが取りなしてくれて、以後チヨーサーは戀神に殉じた善女二十名の話を書くことを約束して漸く許されると目が覚める。かくして書いたのが「善女傳」である。以上大体「善女傳」の「序の歌」を辿つて、そのフランス文学の形式を模し乍ら、しかも彼独特のものをそれに盛つた手腕が窺えたかと思ふ。(一九五〇・一二・二六)

企業組合とその課題

教授 松原藤由

統制組合化した戦時中の商工組合制度に代位すべきものとして、戦後いち早く創設されたのが商工協同組合制度（昭和二十一年十一月十一日公布・同年十二月一日施行の商工協同組合法に準據する）であるが、私的独占禁止法（昭和二十二年四月十二日公布・同年七月一日より順次施行）の制定以來、商工協同組合が私的独占禁止法第二十四條に規定する組合（一）、小規模の事業者又は消費者の相互扶助を目的とする組合（二）、任意に設立され、且つ組合員が任意に加入し、又は脱退することができる組合（三）、各組合員が平等の議決権を有すること（四）、組合員に対して利益分配を行う場合には、その限度が法令又は定款に定められていること（五）に該当するや否や、また商工組合法第一條「組合員の事業の經營の合理化を図るに必要な共同施設をなすことを目的とする」と言う組合本來の精神を現実の組合がどの程度に把握し、且つ實踐しているか疑わしき点が無きにしもあらずであつた。そこで先づ商工協同組合を私的独占禁止法の適用除外団体とすべく、またその後の事業者団体法の施行（昭和二十三年七月二十九日公布・即日施行、周知の如く本法は私的独占禁止法で概括的に禁じたことを具体的に明示し、総ての事業者団体に届出を要求して一種の公示主義をとつて）に伴い、名実ともに中小商工業者の協同組織たらしむべく改正の必要が生じた。かくて幾多の曲折を経て新しく制定されたのが中小企業等協同組合法（昭和二十四年六月一日法律第百八十一号・同年七月一日施行）である。これが現在の中小商工業その他（中小規模の商業・工業・鉱業・運送業・サービス業その他の事業を行う者及び勤労者）の協同組合運動を規定する現行準拠法である。本法に準拠して結成

される組合は事業協同組合・信用協同組合・協同組合連合会及び企業組合の四種である。これらの組合のうち從來の組合に比し、特に新しいのは信用協同組合と企業組合である。わけでも企業組合は、組合員が資本と労力を組合に提供して組合員は組合の従業員となり、その事業は組合みずから行うと言う、すなわち組合員の個別的な事業を否定し、これを組合の事業のうちに吸収する一つ事業体となることを趣旨とする特殊の協同組合であるから、全く最新の組合制度として、その成行は、われわれの注目するところであつた。言うまでもなく企業組合が特殊の協同組合であるのは次の諸点である。

二

企業組合が一般の協同組合と異なるのは、上述の如く組合員の個別事業を否定し、これを組合の事業のうちに吸収するのであるから、組合員は名目的にも実質的にも、もはや事業主体としては存在せず、組合は全く一つの事業体として存在する点である。この点では会社と異ならない。ただ会社と言う名称を使用しないで法的に組合と言う名称（中企法第二條）を使用するに過ぎない。けれども企業組合は会社ではない。それは会社が資本主義の精神的基盤の上に立つて反し、企業組合は他の組合と等しく協同組合の精神的基盤に立つからである。換言すれば会社は利潤追求原理、個人主義、資本家の専制主義の下に運営せられる。これに反して企業組合は他の組合と等しく入用充足原理、運帶主義、民主主義の下に運営せられる。周知の如く協同組合は、中小生産者または消費者が、資本主義の中において存続すべく組織する組合であつて、組合員の協力によつて事業体を運営し、その経済的便益及び経済的向上を図るものである。企業組合は一つの事業体

として企業体的色彩が濃厚であるが、中小事業者及び勤労者が協同組合の精神的基盤を準拠して組織し運営するものである限り、やはりそれは協同組合の一種である。端的に言えば特殊の組織をもつ協同組合である。この点を法律適用関係においてみれば、その主要なるものは次の如くである。

- (一) 企業組合の組合員たる資格を有するものは自然人たる個人である（中企法第七條第四項）個人であれば事業者である必要はない。勤労に従事する者でもよい。他の協同組合には法人でも加入できるが、企業組合では自然人たる個人より加入できない。
- (二) 企業組合は一つの事業体として事業者個人と同一系列におかれるから、他の協同組合の組合員たる資格を有しているが、しかし協同組合連合会の会員たる資格は認められていない（中企法第六條第一項第一号・第七條第三項第一号）。
- (三) 組合員の三分の二以上は、組合の行う事業に従事しなければならない。また組合の行う事業に従事する者の二分の一以上は、組合員でなければならない（中企法第七條第一項第二項）また組合の総出資口数（現金出資でも現物出資でもよい。實際は殆んど現金出資が多い）の過半数は従業員組合員によつて保有されなければならない（中企法第八〇條）。これらは企業組合の結成に当り具備しなければならない二要件である。
- (四) 企業組合では組合員が事業主体として存在しないから当然組合員は、總會の承認を得なければ、自己又は第三者のために組合の部類に屬する取引をしてはならない（中企法第七條第三項）、また組合員が前項の規定に違反して自己のために取引をしたときは、組合は、總會の議決により、これをもつて組合のためにしたものとみなされる（中企法第七條第四項）かように企業組合はみずから第三者と取引するものであつて、組合員との取引関係は原則として生じないから組合員に対し使用料・手数料の徴収及び経費を賦課することができない（中企法第八二條第一項）。
- (五) 組合員の受ける給與は所得税法中の給與所得ま

第1表 兵庫縣企業組合現況 昭和25年10月現在

業 種 別	組合数	組合員数	出 資 総 額
機械金	65	277(30)	13,486,000(29)
織織化	18	94(2)	5,202,000(1)
材及	11	184(2)	6,342,000
木製	16	67(12)	2,902,000(6)
品	19	276(6)	99,515(1)
事	13	167(11)	1,144,500(4)
他	18	96(10)	3,275,000(5)
織食其	15	130(1)	2,623,000
の	25	532(3)	3,381,000(3)
計	36	266(17)	13,444,500(2)
非製造業	236	2089(101)	51,899,515(51)

註 括弧内の数字は不明のもの

第2表 大阪府企業組合現況 昭和25年7月末現在

業 種 別	組合数	組合員数	出 資 総 額
紡金鉄	10	100	618,500
織織化	10	109	354,300
材及	5	92	720,200
木製	5	88	209,490
品	2	29	47,000
事	5	34	146,000
他	1	10	532,000
計	94	3627	44,771,450
農林	40	800	19,858,030
建設	6	41(1)	755,000(1)
卸小	5	121	7,142,000
運	1	16	85,000
其	5	139	1,849,800
他	4	51	1,770,000
計	25	432	11,083,500
設	1	6	400,000
賣	7	168	17,109,800
産	21	1564	7,422,500
管	26	1435	14,644,400
業	273	8872	129,518,970

註 括弧内の数字は不明のものを指す十月現在約三百。

第3表 京都府企業組合の現況(略)

たは退職所得とされる(中企法第八一條)。また剰余金の配当は年一割以内とされ、その順位は出資配当をし、剰余金あるときは組合の事業に従事した程度により分配される(中企法第八二條第二項)。このことは企業組合として当然のことである。

その他企業組合は地区を設定する必要もなく、また組合員が少数であることが予定されるから総代会制をとることができない(中企法第八二條第一項第三三條第一項第三号・第五五條)。かように企業組合は特殊の協同組合である。

三

約一ヶ年の營業時代を経た企業組合の現況を兵庫・

大阪・京都の三府縣についてみれば、それぞれ次表の通りである。これらの企業組合は府縣單位に企業組合連合会を結成し、全国的には日本企業組合連盟を組織している。

本來企業組合は單一業種の組合であるのを普通とするが、なかには異業種の組合、すなわち綜合体が京都を中心として可成り多く存在している。理論的にはこれは邪道である。けれども授信能力の増大、季節的資金需結の調節その他から、あながち輕視するを得ない。健全な發達をしている組合もある。その典型は平安綜合協同企業組合である。平安の場合、今日、組合員四百名・従業員八百名・出資金二五万六千円・借入金三千四百万円(これは實質的には出資金)事業は

二十四部門と言う状態で運営されている。しかしこれは組合員の協力、役員の指導能力、生むための苦闘の成果であつて、他の組合が、この綜合体を模倣したからとて直ちに成果が挙るものではない。紙數の制限から本小論の結論を要約しよう。

企業組合結成の直接の動機は概ね賣行の不振、資金難、税金問題である。わけでも税金対策が大きなフアクターとなつてゐる。けれども企業組合は断じて脱税組合であつてはならない。消極的なことよりも進んで企業組合本來の一つの事業体として、積極的な事業經營を営むことによつて組合員及び従業員の經濟的向上を獲得しなければならぬ。積極的な事業經營を営むことが組合運営の中心問題である。従つて組合の事業經營上必要なことを列挙すれば次の如くである。このことはまた現下の企業組合が實踐せねばならない課題でもある。

(一) 設備の集中化、生産行程の一貫化を計ること。多角經營またはチェーンストア經營等の經營方式を可能的に採用すること。要するに事業經營の積極的合理化を計ること。

(二) 組合本部と營業所との連繫を一層緊密に計り、また會計經理の集約化(獨立採算制がよい場合もある)明確化並びに事務處理の合理化を行うこと。

(三) 役員依存主義に流れず、組合員の自覚と信念により組合を運営し、彈力性なき運営に陥らないこと。

(四) 有能なる役員による統制、優秀なる職員の採用、組合員及び従業員相互間の和合、研究会・講習会などを通じて各自の素質の積極的向上を計ること等。

これを要するに税金攻勢の音が巷に満ちている折柄とても、企業組合は断じて脱税組合であつてはならない。中小企業は生きる唯一の道として、組合は全員の自覚と協力に基づく積極的合理的なる事業經營により、現下の深刻なる窮狀を打開しなければならぬのである。(筆者、經濟学部教授・學振中小産業委員會研嘱)

學内報

臨時協議員會開催

昭和二十五年十二月九日午後四時より天六学舎本部會議室に於いて、千里山花壇購入に関する件につき臨時協議員會を開催

昭和二十六年一月十日午後三時より天六学舎本部會議室に於いて、私立學校法により財團法人関西大学を學校法人関西大学にその組織を變更するの必要に伴い、寄付行為を改正するの件及び昭和二十五年度歳入出追加更正予算案承認の件に關し臨時協議員會を開催

文學部東洋文學科増設

予ねて増設認可申請中の文學部東洋文學科は今回認可あり、新学年度から開講の運びとなつてゐる。

從來我が國では西歐の學を偏重する傾向が強く、動もすれば東洋學の研究は怠られ勝ちであつた。今般本學では東西兩洋の學問の融和を期する意味に於いて此の學科を増設することとした。私立大學にあつては斯る學科を設けている所は稀であつて、この点に於いても大きな意義がある。

山本博士の英文大著刊行

講師山本忠雄博士の學位論文チャールズ・ディッケンズに關する研究を本學英語學會に於いて刊行した。A5判 306頁

尙この著書は近々大學より欧米各國の大學及び學界に交換圖書として寄贈せられる筈である。

研究室及大學本部建設着工

かねて計画中であつた大學院學舎に隣接する研究室及び大學本部の設計成り、近く着工の予定である。鉄筋コンクリート建延坪數 四四七坪

國文學講演會開催

昭和二十五年十二月一日午後三時より千里山大學院校舎に於いて文學部主催により愛知女子大學々長高木市之助氏の「日本文芸の古代性」と題する講演會を開催

十二月三日午後二時より天六学舎に於いて國文學會の主催により京都大學教授遠藤嘉基氏の「國語問題について」と題する講演會を開催

昨年中の内外よりの講演者

昨年中大學の内外より學者又は知名の士を招聘して左の講演を行つた。
米國ドレイク大學教授 L・W・スト
1ネーカー博士(人文科學顧問)
東大教授 宮沢俊義氏(憲法學者)
英國文化使節 G・S・フレイザー氏(詩人)
元大藏大臣 北村德太郎氏(政治家・推薦校友)
福井大學教授 斎藤靜氏(英語學者)
愛知女子大學々長 高木市之助氏(國文學者)
大阪府知事 赤間文三氏

人事異動

教授 廣瀬 拾三
昭和二十五年十月三十一日付任期満了に付學部學生部長を免ずる

教授 植野 郁太
同年十一月十三日付任期満了に付商學部次長を免ずる

教授 河村 宜介
同年十一月十四日付本大學商學部次長に補する

教授 榎本 金次郎
同年十一月十六日付本學部學生部次長に補する

同日付昭和二十五年本學部講師を賜託する
講師 楠 五郎
同年十一月三十日付願に依り昭和二十五年年度講師の賜託を解く

原田 讓二
同年十二月一日付昭和二十五年年度講師を

囑託する

教授研究出張

△藤谷謙二教授 昭和二十五年十一月十二、十三兩日神戸經濟大學で開催の日本財政學總會に出席

△八島治一教授 同年十一月十五日より同十八日まで東京學習院で開催の語學教育研究大會に出席

△石渡俊一員外教授 同年十一月二十四日より同二十七日まで東京大學で開催の日本體育學會第一回大會に出席

△三木治教授 同年十一月二十五日京都日佛學館で開催の日本フランス文學會に出席

△三谷友吉教授 沢村榮治教授 杉原四郎教授 同年十二月九日京都大學で開催の經濟學史學會に出席

△森川太郎教授 安田信一教授 同年十二月十五日より同十七日まで東京東洋經濟新報社で開催の金融學會二十五年年度下期總會に出席

GROWTH AND SYSTEM OF THE LANGUAGE OF DICKENS by TADAO YAMAMOTO

ディッケンズの英語を愛する著者が、その表現法を成長と組織の両面から詳細に考察し、英語のリアリティを緻密に観察したもので、Dickens の英語を通じて言語の人間性と英語に表現された英國國民の生活と思想を究明することを目的としている。

本文全英文 A5判 508頁 特製
定價¥1,000 予約中¥850 下¥65

吹田市千里山
刊行所 關西大學英語學會
發賣所 紅帆社
大津市長柄中道2丁目
大阪 16554番



一部文化祭 演劇部の一場面

學生欄

一部學友會文化祭

十一月七、八兩日、毎日会館で挙行、文化各部の日頃の活動を一堂に集めて盛會であつた。第一日は学長挨拶に續き辯論部の辯論発表、演劇部による新劇野上彰作「僕達はそれを持つことは出来ない」の上演があつたが、初日初演で一幕をカットしたので興味が淡く、午後は軽音楽部のハワイアン音楽、謠曲部による素謡「船弁慶」仕舞「玉かつら」續いてグリークラブのコーラス、映画研究部の上映映画「スベードの女王」で終り、第二日は、辯論部主催の学研部の辯論発表、

邦楽部の演奏発表、殊に山村流舞踊「ゆき」は、その清楚華麗な日本舞踊に目を奪い、タンゴバンドのジャズに心浮き立ち、二部演劇部の援助出演「貧國譚」現代諷刺劇として万場を哄笑に包んだ。交響樂團によるベートーベン「第五交響曲」は六十余名のメンバーで当日の圧巻であつた。

最後は、第一日の演劇の再演、ライト効果新形式に依る演出は新しい劇の構成の將來性を想わせ、中谷美久の演出、高木・道下・西山諸君の熱演に多大の感銘を觀る者に與え、二日間、地階では茶道部によつて來賓に茶席を設け招待したのが印象深かつた。

二部學友會文化祭

十二月十七日、大手前会館に於いて開催、二部學友會としては唯一の年間行事として茲に第三回目を迎え、社会人として畫間は活動し夜間は勉學に勵む學友がよくその余暇を活用して、文化面にも、当日見るが如き成果を挙げた。

委員長畑下辰典の挨拶、学長の挨拶に始まり、辯論部の辯論、社会科学研究部の異色あるコーラスと詩の朗讀、関大ハワイアングループの軽音楽、吟詠部による吟詠、更に当日特別講演を願つていた本学の先輩一北條秀司氏病氣のため、氏の好意によつて氏の傑作「防風林」を大阪放送劇團の諸氏が熱演せられ、さすがに素人には眞似の出来ない放送劇は、觀衆を劇中に誘ひこむ想いに駆つた。朝鮮

文化研究部の「民族の花束」は朝鮮の民謡と舞踊の紹介の間に朝鮮民族の血の叫びを擧げているようであつた。グリークラブのコーラス、志賀山社中の特別出演による日本舞踊、月村光子女史の獨唱、関大アロハセレナーダスの軽音楽、演劇部学窓座のモリエール作「タルチュフ」は、鈴木俊郎演出で、谷・阪本・南の熱演は原作の輕妙な喜劇に觀衆を陶醉せしめ、佛映画「泣きぬれた天使」を上映して予定通りの時間に終演した。二部文化学研各部活動は、多く天六学会に於いて行われる關係からその活動状況も不明であるが、本年度特に活潑に活動した部に就いて紹介する。

二部經營經濟研究部

連續講座を開講十一月九日から実施している。

十一月九日「經營統計について」教授 高木秀玄氏

十二月五日「労働組合と社会政策」教授 河野稔氏

十二月七日「現下の國際情勢を繞る日本經濟の動向」田辺製藥取締役 平林忠雄氏

十二月九日「中小企業協同化」教授 松原藤由氏

十二月十一日「企業會計原則」教授 植野都太氏

十二月十三日「近代保險と社会保障」神祿大教授 稻葉義氏

十二月十五日「改正商法に就いて」法学博士 西本寛一氏

更に同部に於いては、十二月十八日より

り冬期會計講座を開講し、公認會計士受験者の爲の勉學の指針を計画している。

二部社會科學研究部

同部に於いても各講師を招いて講座を開き積極的な活動をやつてゐる。

十一月九日「レッドパーズと戦争」阪大津村教授

十一月二十日 詩人小野氏を囲む會座談會

十一月二十七日「戦争は避けられるか」立大 前芝教授

十一月二十五日より毎週一回講師を迎え朝鮮歴史研究会を催している。

二部近代文學研究部 國文學研究部

十二月二十一日より二十六日まで、文學講座を開講した。

基教研究部

当部はキリスト教研究のみでなく関大アカデミー意識を學友間に昂めようと十一月九日より十二月七日まで約一ヶ月間一週五日間本學教授を招いて連續講座を開いた。

毎週月「法理觀の變遷」中谷敬壽教授

毎週火「倫理思想史」田中照教授

毎週水「法思想の流れ」田中周友教授

毎週木「社会經濟史」堀経夫博士

毎週金「政経史」矢口孝次郎教授

別に十一月十三日には、東大教授 隅谷三喜男氏

十一月十六日には聖和大教授ホワイトヘッド氏の講演會を開いてキリスト教研究をやつた。

史學研究部

十一月十九日朝日新聞社講堂に於いて本部主催、朝日新聞後援のもとに歴史学大講演会を開講した。

「歴史と小説」関西大学教授 石浜純太郎氏

「中国古代帝国の形成」京都大学教授 貝塚茂樹氏

「自由に就いて」京都大学教授 原隨國氏

一部文藝部

機関紙「千里山文学」「艸門短詩」の発行の他に、文化的事業を行う目的を以つて「バツカス会」を設け、その第一回文芸講演会を十二月二日に行つた。

作家 仲田多香史氏 崎山鄭司氏を迎え、それぞれ講演を行つて貰つた他、関西学院文芸部、相愛女専文芸部からも讃助出演があり文芸スピーチ、詩の朗読等あり、文芸放談会を開いて談笑裡に過した。

一部辯論部

十一月十五日経商学舎講堂に於いて、「全関西大学高専学生優勝辯論大会」が開催され、本学辯論部員藤田和海君が一等賞の榮譽を担つた。

二部辯論部

十一月二十二日より十二月十六日まで「青少年不良化防止月間」に讃助街頭演説会を大阪市内各ターミナルで行い非常な反響を呼んだ。

美術部

全関西展が十一月二十七日より十二月二日まで、写真展と共に行なわれ、左の諸君が入賞した。

丸山 勉 「林間」

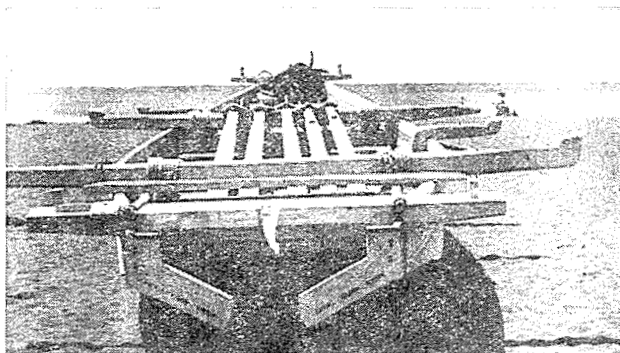
森本尙昭 「静物」

大田康雄 「人間失格」

富 眞 部

美術部と同様、同期間中三越百貨店で開催され、左の諸君が入選した。

朝日賞 「船」 村上祐一



村上君作「船」

富士賞

「夜のルポルタージュ」
村上祐一

特選「作品」向井 正

その他入選九点、佳作四点で、大北弘、岩橋尚雄、西脇利一、船戸幸雄の作品が印象的であつた。

体育各部は、秋季は予想外に振わず、各部とも二、三位に甘んじる始末であつた。その中から優秀なものだけを拾つてみる。

ホツケー部

関西四大学リーグ戦では、春秋二季を通じ優勝し、文字通り関西学生ホツケーの王座を獲得した。

軟式野球部

関西四大学軟式野球王座決定戦を千葉国府台で行い、次の成績で各校を破り優勝した。

本学 5 — 1 法政大学
本学 4 — 3 明治大学

レスリング部

拳闘部と本部は本学が全国的に強力を誇るものであるが、本年後半拳闘部の不振を、本部によつて補っているかの感がある。東西対抗、日大対抗にそれぞれ優勝した。

西 4 — 2 東
本学 4 — 3 日大

以上三部の秋季健闘を祝して学生課ではささやかな優勝祝賀会を十二月十八日学内で行つた。

柔道部

本春新らしく発足した本部はニュージ

ヤバノ道場で技を磨いていたが、秋から新らしく各校と対抗試合を初めることになり、十一月十七日対大阪商大戦に勝ち十二月十日対関学戦を行つた。戦前各運動紙の予想では関学の勝利が圧倒的であつたが、試合結果は次の如くである。

関大 関学

林田 分 大川

吉田 分 田中

杉浦 分 萩原

馬場本 分 石谷

堀田 分 石川

野見山 分 入江

岡本 分 岡本

坂本 分 望月

一瀬 分 村田

富士原 分 米沢

(勝)

バスケット部

関西六大学リーグは春季戦に引續いて秋も本学の優勝が期待されていたが、予想に違わず九勝一敗と関学大と同率となり優勝決定戦が十二月九日西宮体育館で行われ、熱戦の末、次のスコアで敗れた。がしかし来春早々に行われる全国学生籠球王座決定戦には本学も出場権が與えられた。

本学 47 — 60 関学

校 友

泉南支部學術講演會

關西大學校友會泉南支部主催學術講演會は昭和二十五年十二月二十六日(火)午後六時から佐野市立第二小學校講堂で開かれた。この日折悪しく寒波の襲來で聴衆は疎らであつたが定刻入江副支部長の開会挨拶に次いで松浪支部長の「税金と生活」春原氏(本學理事)の「生活と法律」岡野學長「挨拶」森川博士(本學教授)「經濟自立」藤田氏(本學校友)「講和問題考察」等々それ〴〵専門的立場からの造詣深い人の講演で地元佐野市教育課及び泉南実業新聞社の御後援を感謝する次第である。

大阪支部總會

去る昭和二十五年十一月十九日(日)正午より武田尾紅葉館に於て本年度總會を開催された。中務支部長の開会の辭並に経過報告及び會計報告等挨拶を兼ね説明があり、満場一致之を承認した。續いて岡野校友會長の挨拶あり、終つて來賓側を代表して宮島理事長より謝辭を兼ね大學の近況について述べられた。各挨拶の後、樫本氏より寄付保險の紹介があり、會社側より野村氏(本學校友國民生命)の説明があつた。會員各位の所感披露の後、會則改正の議事に移り會則第五條役員の中副支部長二名に改正及び第八條會費は半々年二百円と改正すること

に承認された。

尙今後の發展の爲に會員各位より新會員獲得倍加運動の申合せをなした。斯くて總會を閉じ引續き懇親會に移るや学生時代の想出漸しに花を咲かせ歎を盡し暮色將に至らんとする夕映の溪谷に点描された秋の錦を觀賞しつつ一同無事に午後五時半解散した。

当日の出席者左の通り

大學側 宮島理事長、岡野學長、村尾理事、關理事、春原理事、阿部監事

會員側(敬称略順不同) 中務平吉、大月伸、下條小野右衛門、西本寛一、樫本信雄、神屋敷民藏、金田茂就、中沢俊雄、弓場晴夫、山崎敏義、馬場弘道、富永竹夫、三島律夫、角田好太郎、八木万太郎、柏元孝治、辻本幸臣、木村順太郎、桂忠雄、野村功(國民生命)、押谷忠之(國民生命)、原良人、徳田誠一郎

神戸支部定時總會

昭和二十五年十二月二十三日(土)午後二時より北京樓に於て大學より宮島理事長、學長代理として大小島文學部長出席し、遠く姫路、尼ヶ崎よりも來會者四十余名出席し神戸支部定時總會を開催。先づ向井裕亮氏開会の辭を述べ、多賀恒一氏の経過報告あり、支部長角田好太郎氏の挨拶に引續き學長代理大小島教授より最近の教務報告の後、宮島理事長立つて五ヶ年計画完遂の緊要を説き更に

本大學百年の計を建てる爲、寄附保險の制を國民生命(旧住友生命)に委託したこと、経過報告と校友各位の協力要請あり、次に懇談に移り午後六時盛會裏に散會した。



神戸支部總會

当日の出席者左記の通り(順序不同敬称略)

大學側 宮島理事長、大小島教授、支 部 角田好太郎、原田鹿太郎、下條小野右衛門、星野正身、向井裕亮、水本信夫、小山平治、多賀恒一、栗坂諭、森又雄、久保尚行、水本千代松、滝利幸、森知己、井沢国雄、松本一夫、長井彦五郎、難波春雄、三條一

男、岸源三郎、杉野慶一、山本鎮郎、母里保、渡辺道雄、石井豊彦、立花成美、酒井義哉、光島正典、小川立朝、阿佐美久雄、和氣安雄、是常福治、織田猛一、中島昭夫、中田圭三、大口正巳、木村功、黒田邦彦、村瀬裕、横山竹夫、劉仁徳、八崎圭之介

職域名簿抄 (四)

西宮稅務署

大 監 事 務 官 則岡 祥三 昭 九專法

村岡 道久 昭一八〃

田村 房雄 昭二二大專法

上田 勝 昭二四專法

大倉 敏幸 〃〃

泉大津稅務署

大 監 事 務 官 山崎正五郎 昭二二專法

不動產法人稅務係長 和田 弘 昭一六專商

大 監 事 務 官 三平 利郎 昭二二〃

尼崎稅務署

稅務署原員 川口 一郎 昭一四專商

大 監 事 務 官 山下 重男 〃〃

多田 稔 昭一七專法

浪速稅務署

大 監 事 務 官 棚橋 旦高 昭一四關甲

〃〃 〃〃 〃〃

〃〃 〃〃 〃〃

〃〃 〃〃 〃〃

〃〃 〃〃 〃〃

〃〃 〃〃 〃〃

〃〃 〃〃 〃〃

〃〃 〃〃 〃〃

〃〃 〃〃 〃〃

校友の面影

— 1 —

かつての学報に「校友の面影」と題して、第一線に活躍している校友紹介の頁があつた。本号からその続篇として、各界の新人、中堅交々登場願うことにした。

大阪市公安委員

神宅賀壽恵氏

◆……鈴木警視總監指揮の下、全国に率先して警邏制度を布き、犯罪なき都市を目指して着々成果を挙げつゝある大阪市警の中に在つて、我が校友神宅賀壽恵氏は、警視總監の目付役たる公安委員として、大阪商工会議所会頭杉道助氏と共にその重任に當つてゐる。

一日氏は次の如く苦心談を語つた。
「自分は民事訴訟法の専門で、辯護士として刑事事件を扱つたことは稀で、警察のことも特に研究した訳ではなかつた。因らずも公安委員に選ばれてこの方の勉強もせねばならなくなつたが……警察と言へば一般市民の頭に



神宅賀壽恵氏

は未だに昔の官僚万端の印象が消えないが、それ故民主政治の今日に於いては特に民衆の警察たることを眼目とせねばならない。その爲には警察官は数ある素質のすぐれた者でなければならぬ。が従来その待遇は他の官公吏に比して著くはなかつた。そこで先決問題は待遇の改善となり、大阪市の二年半をかけて待遇の線を市吏員並に上げたのである。軍なき後の治安維持の責任は懸つて警察の上であり、終戦後大量増員の止むなき結果、とかく素質の問題も云々されたが、現在はこの悩みも清算されその素質は大いに向上したと信じてゐる。しかし多年の因習は、官僚風を吹かす風が全く跡を絶つたという訳には或いは行かぬかも知れぬが……」

◆……氏は大正四年専門部法科を卒業、高文試験に合格、辯護士を開業、大正十一年民法・商法の研究の爲、本留学学生として独・佛に遊学、ベルリン、アルサス、ストラスブルグの各地に滿三年間を専心研究に盡され、大正十四年帰朝、辯護士を開業すると共に同年九月より昭和二十三年まで二十四年間の永きに亘り本学講師として、民法債権各論、商法総則、会社法、商行為法、手形法の講義を担当した。

現在は公安委員の重職に在る傍、日本辯護士聯合会理事として毎月一回は同理事會出席の爲上京、また本学にあつても各種の委員として盡力し、最近趣味の釣にも全く足を向ける余裕がなくなつたと洩らしている。

和歌山市長

高垣善一氏



高垣善一氏

◆……國立公園新和歌浦、難波崎等の勝地を擁する和歌山市の公選初代市長としてその行政的手腕を称えられ、二十万市民の信望を聚めてゐる高垣善一氏は一日市役所に訪ね、市政に対する信條を訊したところ、氏は言下に、「地方政治の現段階では中央の政党の出店の性格を持つことはよくない。保守・革新各派の主張の何れであつても、市民に益するところのはすべて採入れることを信條としてゐる。また市の職組とも対立すべきではなく、自分も職組の一員たるの心構えを以てその要求するところをよく認識し、不満の起らぬように豫め手段を考えるべきものだと思ふ」と市政運営の要諦を些かのためらいもなく確信を以て語る

ところは、さすが「市民の市長」と言われるのも故なきものではないと感じさせられた。

◆……氏は和歌山縣田殿村の出身、本年五十二、若くして電信通信手、鉄道出札係、法律事務所、の書生として世の波風に揉まれ粒々辛苦、昭和三年専門部法科を卒業したのは二十七才であつた。更に昭和七年再度本学に籍を置き専門部法科を経て学部に進み同十年法学部を、同十四年経商学部を卒業、働き且つ学んだ生活の日月は随分永い。其の間昭和八年和歌山市會議員、同十二年同副議長、同十四年縣會議員に當選した。氏の政治的手腕はこの間に練られ、今日の大を築いたものである。

◆……和歌山市は戦災で市街地二万坪、戸數四万七千の中、半を越える二万七千戸を焼失し、昭和二十二年六月、陛下行幸の砌、和歌山城址から市内を御説明申した時には一望焼土であつたと。現在二千二百戸が再建され、また市の復興は教育からと言ふ主旨によつて、小中学校十七校が建設され、更に観光都和歌山市の復興も着々に進捗の途にある。

◆……「いつも福島や天六學會、千里山に學んだ昔を懐しく想ひ出すが、久しく大学には御無沙汰である。しかし大学の充実発展を聞くにつけ諸先生の御努力に感謝してゐる。今後は校友會のことについて盡力したい。またこの春には長男を千里山へ進学させたと思つてゐる」と語る氏の双眸には學園への懐旧の情が溢れてゐる。

フレーザーの講演

エドモンド・ブランドン氏の後任として来日されたG・S・フレーザー氏は関西旅行の途次、昭和二十五年十一月十日千里山の本学を来訪され、経済学部学会大講堂に於いて午前十時半より十二時まで約一時間半に亘つて、現代英詩入門といふ題下に講演をされた。多数教授諸氏並びに講堂に溢れる学生が聴講して、盛會裡に講演会を終つた。其の講演要旨は次の如きものであつた。

今次大戦勃發前の英國詩壇は、T・S・エリオット(Eliot)の影響を受けたW・H・オーデン(Auden)、ステイヴン・スペンダー(Stephen Spender)、セシル・デイ・ルイス(Cecil Day Lewis)等の詩人の活動した時期であるが、彼等はT・S・エリオットが個人の内面的改造によつて現代を救済しようとするのに反し、社会組織の变革によつて人間の救済を意圖した人々であつた。そしてオーデンの如きは、戦争の災禍すらも却つて、よりよき世界を將來する爲には必要なものであるとして肯定してゐたのである。然しながら第二次大戦の勃發は傳統的な英國の自由主義擁護の機運を盛にして、彼等をさへもコミュニストの陣営から自由主義者の陣営へと引戻すやうな結果を齎した。

戦争によつて失はれた詩人中注目すべき人としては、アラン・ルイス(Alun

Lewis)、シドニー・キーズ(Sidney Keyes)、ギース・ダグラス(Ken Douglas)等がある。また戦時地中海方面で活躍し、其の地方的影響を受けた詩人としては、ローレンス・デュレル(Lawrence Durrell)、バーナード・スベンサー(Bernard Spencer)、G・S・フレーザー、テランス・テイラー(Terence Tiller)等の詩人がある。尙、戦時中並びに戦後、オーデン等の社会的関心の強かつた詩壇の傾向に対する反動として、個人的感情を個人的な言葉、極



來學のフレーザー氏夫妻

めて個性的な言葉で叙べる詩人たちが出た。これらの人をネオ・ロマンティスト(Neo-Romanticist)と呼ぶことが出来るが、デイルン・トマス(Dylan Thomas)及びジョージ・バーカー(George Barker)はその中の注目すべき詩人である。更に聲的或いは宗教的な関心を持つ傾向が顯著になり、T・S・エリオットも勿論その中の一人に数へられるが、キャスリン・レイン(Kathleen Raine)、エ

ドウィン・ミューン(Edwin Muir)、デイヴィッド・ガスロイン(David Gascoyne)等をその中に数へることが出来る。靈的影像を詠ふ詩人として、イーディス・シットウエル(Edith Sitwell)をも挙げることが出来るだらう。

大体現代の英詩といふものは英國人自身にも決して理會の容易なものではないので、その困難は日本の学徒諸君には一層強く感じられるだらうけれども、現代英人の苦悩や希望や内面的狀態を最も正直に露呈してゐるものとして、其の研究は其の勞に値するものであるし、私はさう信じ、私は英詩に関心を拂つて下さることを希望する。

フレーザー氏の開歴に就いて一言すると、フレーザー氏は一九一五年グラスゴーに生れて、アバディーンのグラナマースクールを経て、セントアンドルーズ大學を卒業し、戦時中はミドウル・イースト(中東地方)に出征し、戦後はロンドンの操觚界に活躍し、ロンドンタイムス文藝附録ニュースティーツ・エンド・ネイションに寄稿してゐる。従來發表した詩集が二巻あつて、一はホームタウン・エッジ(Home Town Elegy)、一はザ・トラヴエラー・ハズ・リグレッツ(The Traveller Has Regrets)と名づける。その他旅行記一卷、スコットランド風物記一卷がある。また講演集が二冊あり、一は「戦後英文学の傾向」であり、一は「近代作家とその世界」と題して近く刊行の豫定であるといふ。

チンを訪れ、一九五〇年三月、ブランドン氏の後を受けて、日本へ文化顧問として來られたのである。氏は尙春秋に富み、豊かな詩的才能と犀利な批評的眼光を持ち、若々しい男性的風采と深い美しい声とを以て英國に於いても更に將來を期待されてゐる文学者であり、しかも飾り氣のない素朴な態度と、同情と理會とに富んだ心とを持つてをり、文化使節として日本の英文学界のみならず、文化全体の向上に資せられることに僅少でないことを信ずる。その夫人アイリーン・フレーザー氏はオックスフォード大學に於いて英文学を研究せられた学徒で、極めて教養に富み且つ美しく、しかも氣取らぬ婦人であつて、日本文化に対する理會も深く、我が文化使節のよき伴侶として我々の爲に盡されることの大きなことを信ずる。我々は茲にフレーザー氏並びに夫人の御健勝と御發展とを感謝を以て祈るものである。

なほフレーザー氏夫妻は十一月九日夕、千里山の一旅亭に於ける本学文学部教授とのすきやきパーティに出席せられ、歓談の時を移された。それは文学界(昭和二十六年一月号)所載の同氏の「日本の美しさ」と題する文章の中にも記されてゐる處である。更に翌十日講演終了後、以文館に於いて理事長並びに学長らと午餐を共にし、大阪駅から広島への講演に出發せられた。

我々はこれらの会合が相互の藝術と生活との理會に役立つたことを深く感謝し且つ喜ぶものである。(M・H生)

英詩人

ブランドン氏の書翰

一昨年二月本学を訪れ現代英文学に關する一場の講演を行った次の英国桂冠詩人 (Poet Laureate) と囑目されて居るエドマンド・ブランドン氏 (學報第二三一号参照) は昨年四月歸英し、その後從前通りタイムズ紙の文藝附録に独自の筆筆を揮ひ、又屢々日本に關する講演を試み、操觚界の偉材として活躍して居る。この度同氏が私に一書を寄せたが、その用語、文体ともに我々華語の學習に關心を持つ者にとつて推量措く能はざるものあり、更にその内容に至つては詩人的風格の横溢せるあり、殊に日本に對する好意の甚だ切なるものを感じしめる。かゝる結構な書翰を私一人で読み納めるのは如何にも惜しい氣がするので、こゝに之を掲載し同學諸子にその眼福を分つことにしたのである。拙劣なる訳文を副へることによつて原文の妙味を減ずることを恐れて之を省くことにした。

尙機會あつて英文學者の堀教授に又華語學の大家山本博士にこの書翰をお目につけたが、両先生共に全く私と同感であつた。(T・M生)

London, October 25, 1950.

Dear Professor Miyajima,

I find a letter to you which I wrote in July and escaped being posted: since then, we have had one or two visitors from Japan and many other agreeable remembrancers of our life there. I am able to give an occasional lecture here too on some subject which should help towards the exchanges of people, thoughts and things when the Occupation formally ends. The next will be "The English in Japan."

I rejoice that you invited Mr. Fraser to Osaka and perhaps he is to be with you this winter. By the way the most brilliant sun is gilding London as I write, but as you remember this English sun is apt to hide away even while one is reporting his splendour. The town would not seem to you so vastly altered except in the City,..... and the Temple was heavily damaged, but the rebuilding goes quickly on. Your old haunts Kew, Richmond and Windsor (we shall take our daughters there this week-end) look much as ever.

The office work of our Journal is quite an occupation. We lately printed a long paper on the no-play and its translator Mr. Waley, but the writer I am afraid has never attended a performance and that weakens any discussion of the difficult subject.

My wife joins me in kindest regards to Madame Miyajima and you, and we still wish daily that we had stayed, could have stayed, in Japan on so many accounts.

Yours sincerely,

Edmund BLUNDEN

Public Finance, Sociology, Commerce.

- Laufenburger, Henry : Traité d'économie et de législation financières. Tome 1-4. Paris
Tome 1. Revenu, capital et impôt. 4^e éd. 1950.
Tome 2. Dette publique et richesse privée. 3^e éd. 1948.
Tome 3. Budget et trésor. 3^e éd. 1948.
Tome 4. Législation fiscale française. 3^e éd. 1948.
Lester, Richard A., and Shister, Joseph : Insights into labor issues. New York 1948.
Woods, Baldwin, and De Garmo, E. Paul : Introduction to engineering economy. New York 1949.
Wright, F. J. : Commerce. Vol. 3. The economics of commerce and industry. London 1947.
Kohler, E. L. : Advanced accounting problems. 2d ed. New York 1949.

Literature.

- Hazlitt, William : The essays of William Hazlitt. London 1949.
Levin, Harry : James Joyce, a critical introduction. Norfolk, Conn. 1941.
Mitchell, Margaret : Gone with the wind. New York 1949.
Almanach des lettres, 1949 ; présenté par François Mauriac. Paris
Almanach du théâtre et du cinéma, 1949 ;

- présenté par Jean Cocteau. Paris 1948.
Talvart, Hector, et Place, Joseph : Bibliographie des auteurs modernes de langue française (1801-1944) Tome 1-8. Paris 1928-48.
Clouard, Henri : Histoire de la littérature française. Tome 1-2. Paris 1947-49.
Adam, Antoine : Histoire de la littérature française au XVII^e siècle. Paris 1948.
Mongrédien, Georges : La vie littéraire au XVII^e siècle. Paris 1947.
Massia, Henri : D'André Gide à Marcel Proust. Paris 1948.
Corneille : Théâtre. Tome 1-2. Paris 1949.
Racine : Théâtre. Tome 1-2. Paris 1948.
Flaubert, Gustave : Madame Bovary. Tr. by H. M. Aveling. Cleveland 1948.
Malraux, André : Scènes choisies. 3^e éd. Paris 1946.
Sartre, Jean-Paul : Les chemins de la liberté. Roman. Paris
Tome 1. L'âge de raison. 97^e éd. 1949.
Tome 2. Le sursis. 87^e éd. 1949.
Tome 3. La mort dans l'âme. 16^e éd. 1949.
Boccaccio, Giovanni : The decameron ; or, Ten days' entertainment. Tr. by J. Payne. Cleveland 1947.
Freeman, Kathleen : The Greek way, an anthology. London 1947.
Aristophanes : Five comedies. Translation. Cleveland 1948.

所蔵重要図書解題 (其二)

1. Selden, John: The History of Tythes.
セルデン著「十分の一税史」一六八八年刊 一冊

年より今日まで、第八章乃至第十四章は章の題目はないが色々な角度から論究している。

十分の一税とは、課税標準に対して十分の一の割合で課税される租税である。その起源は古く、キリスト教発生以前のユダヤ教に始まるものである。六、七世紀の頃から、古代ユダヤ教にならつてキリスト教教会が教区民から、家畜、土地生産物、手工業生産物等の十分の一を貢租として納付させたが、後、教会経済を國家が給與する様になつてからは、國王や領主に課税の權利が移つた。本書はユダヤのアブラハム及ヤコブの時代から筆を起し、彼の時代まで年代を追つて詳細に記述したもので、十四章からなり、約五百ページに及んでいる。即ち、第一章は法律以前の十分の一税、第二章はユダヤ人の十分の一税の支拂法、第三章は異教徒の十分の一税の支拂、第四章はキリスト生誕後四百年間、第五章は四〇〇—八〇〇年、第六章は八〇〇—一二〇〇年、第七章は一二〇〇

著者ジョン・セルデンは、有名な英國の法學者であり政治家であつて、一五八四年生れた。一六〇二年頃までオックスフォードに学び、一六〇四年ロンドンの法学院 (Inner Temple) に入り、一六二二年弁護士になつた。彼はベン・ジョンソンとは親友の間柄であつた。一六一七年この書を著わしたが、序文中や本文中の文句は、いたく僧侶の激怒を買ふところとなり、發賣禁止になつた。一六二三年議會に入り、一六二六年バーミンハム侯を彈劾したが、一六二九年チャールス一世の專制に大反対であつた彼は、遂に他の首領と共にロンドン塔に投獄せられた。一六三一年出獄し、長期議會にはオックスフォード大学を代表して議員となり、一六四三年ウエストミンスター會議に出席する等、又各種の委員に列なり政治的活躍に盡した。一六四九年チャールス一世が刑死後は政治運動から引退し、一六五四年死去した。彼は本書の外に十數の著書を残している。(K・A 生)

關西大學「擴充資金」募集

— 寄附保險について —

趣意書

本大學が創立以來六十有余年、其間多數有爲の人材を社会に送りだし、我國文化の進運に渺からず貢献してきたことは一般に汎く認められてゐるところであつて、本大學関係者の深く喜びとするところであります。

さて過去幾段階かの發展を経てきた本大學は、終戦後の学制改革によつて、法、文、經、商の四学部を有する新制大學となり、更に本年度からは新制大学院並に短期大學を設置して、新制度による綜合大學としての威容を一応整えることになりました。

しかし綜合大學としての理想からその内容及び施設を見ると、尙改善を要するもの多く、今後その整備と拡充とに一層の努力をいたすべき必要に迫られてゐます。

就中、本大學が官私諸大學の間に伍して傳統の地位を維持し、大學としての使命を達成するためには、この際本大學百年の計を立てると同時に、左のやうな事業を完遂することが緊要の重要事となつてゐるのであります（本誌前号表紙二頁「關西大學五ヶ年計畫」御参照下さい）

一、發足したばかりの新制大學、大学院及び短期大學の完成

二、研究室及び圖書館の整備充実

三、學生に対する輔導並びに福利厚生施設

四、命数の少なくなつた建物、とりわけ本館の新築

五、教職員の待遇改善と優秀なる教授の招聘

固より右のやうな事業遂行のためには、巨額の資金を必要とするのであるが、戦時及び戦後の經濟的混亂を通じて本大學財團の經理も著しく困難となり、新事業の實行に必要な資金は、これを関係各位の御支援に俟つの外なき状態にあります

近年アメリカの諸大學、殊にハーヴァード、エール、プリンストン等の各大學に於ては必要資金を調弁する方法として寄附保險が盛んに行はれ、大いに効果を收めてゐるやうであります、本大學に於ても上記の事情に鑑み、関係各位の御援助をうる一方法として、今回この寄附保險の制度を採用することにいたしました

寄附保險と申しますのは、保險金の受取人を契約者の指定する者並びに大學とし、その保險金の一部を大學に御寄附願う仕組のものでありますして、この方法に

よると、知らず知らずの内に思はぬ多額の資金を、大學に御寄附願えることになるのであります。

本計畫の實施については、その事務の一切を國民生命保險相互會社（旧住友生命）に委託することにしましたが、御承知の通り、曾つての住友本社は千里山の現法文學部學舎の寄贈者であつた等の關係に於て、從來から本大學と縁故極めて深く、從つて同保險會社にこの寄附保險の取扱を委託するのが最も相応しいと存じます。ついでには本件担当の同社職員が御伺いたしました節には、何卒母校御支援の思召を以て特に御協賛下さいませやう、切に御願い申し上げる次第であります。

昭和二十六年一月

關西大學學長 岡野留次郎

關西大學理事長 宮島綱男

各位

寄附保險要項

保險種類 毎期精算配當付自由保險（有診査及無診査）

保險期間 十年、十五年、二十年、二十五年、三十年各満期

保險料拂込方法 年拂又は半年拂

保險金 年拂、半年拂を問はず一件一口拾万円以上とする。

但し特に半口を認める。

保險契約者及被保險者

財團法人關西大學の經營する學校の卒業生、教職員及大學の役員、大學の校友會常議員會で推薦された者並に右の凡ての父兄家族及一般有志

保險受取人 保險金額の半額を大學、半額を契約者の指定するものとする。

保險料の集金

（イ）第一回保險料 募集担当者が直接集金する。

（ロ）第二回以後保險料 會社より契約者に直接拂込の案内をなし契約者は振替貯金その他の方法により直接會社に拂込むものとする。

○尙詳細は同社社員お伺ひして御説明申し上げます。

昭和二十六年一月十五日發行（復刊六号）

關西大學學報 第二三六號

一年誌代費二〇〇円（送料共）

大阪府大淀區長柄中通二

編輯兼發行人 關西大學學報局

印刷者 株式會社ナニワ印刷所

大阪府大淀區長柄中通二

發行所 關西大學學報局

大阪府大淀區長柄中通二

電話掛川（三）一七五六番

振替大阪二六七二番

關西大學概況

沿革
明治十九年關西法律學校として創立、同三十七年專門學校令による關西大學と改称、大正九年社團法人關西大學を財團法人關西大學に改組、同十一年大學令による大學に昇格、昭和二十二年現在の新制大學(四年制)に改組、同二十五年大學院及び短期大學部設置、私立學校法により同二十六年四月以降財團法人關西大學を學校法人關西大學に改組

内容
大學部(二ヶ年以上) 法學研究科(憲法學研究、刑法學研究、政治學研究、民法學研究、商法學研究、行政法學研究、國際法學研究、法制史研究、英美法研究) 文學研究科(英語及英文學研究、國語及國文學研究、哲學及哲學史研究、歷史學研究、大陸文學研究、中國文學研究、英語學研究、古典語研究) 經濟學研究科(經濟學研究、金融經濟論研究、財政學研究、日本經濟史研究、一般經濟史研究、英管理論研究、佛文經濟論研究、獨文經濟論研究、會計學研究、監査論研究) 文經濟學研究、佛文經濟論研究、獨文經濟論研究、會計學研究、監査論研究) 英文合格者には修士の學位を授ける(博士課程は法令の公布實施次第設置する)

學部(四ヶ年) 法學部(法律學科、政治學科) 文學部(英文學科、國文學科、哲學科、佛文學科、獨文學科、史學科、新聞學科、東洋文學科) 經濟學部 學部(二ヶ年) 商工經濟科 短期大學部の授業は第一部(夜間)及び第二部(夜間)に分ける

教育方針
人格を陶冶し、健全な思想を涵養し、豊富の教養の上に専門的知識を付與し、指導者として善良な市民を育成し、特に我國一般社會の爲更に進んでは國際社會の爲に貢獻するという崇高且つ雄健な氣概を養育することを教育方針とする

施設
千里山敷地 大學院學舎、法文學部學舎、經濟學部學舎、研究室及び大學本部(建築中)、圖書館、威德館(大教室)、以文館(會議室)、文化會館、體育會館、大運動場、食堂、厚生會館(給品部)、惠風園(教職員住宅地)、千里山遊園地(擴張計畫用地) 天六敷地 短期大學學舎、圖書館、附屬高等學校及び中學校學舎、法人本部、食堂、教授、學生及び卒業生 教授講師 二百七十名 學生 九千三百七十名 卒業生 三万一千二百五十名

將來の計畫
擴張五ヶ年計畫に基き向う五ヶ年間に法文學部學舎の改築、大講堂及び大學塔の建設、圖書館の擴張並びに研究室及び大學本部の新設を實現し、他方昨年購入した隣接地千里山遊園地(約三万坪)に學園の一部を移轉すると同時に「大學の社會化」及び「市民の大學利用」の二大主旨に隨い一般市民が大學の文化的並びに體育的活動に對して關心を深め常に大學に親しみ容易に大學に近づく機会を作りまたその設備を施す計畫である

關西大學 附屬第一高等學校 生徒募集

第一高等學校

晝間課程(普通科)

募集人員 第一學年 約三五〇名
第二・三學年 各若干名
出願期間 二月五日(月)——二月十四日(水)
每日午前十時より午後七時まで(日曜日を除く)
銓衡期日 二月十五日(木)、十六日(金)

夜間課程(普通科・商業科)

募集人員 普通科(第一學年 約一〇〇名、第二・三・四學年 各若干名)
商業科(第一學年 約一〇〇名、第二・三・四學年 各若干名)
出願期間 第一次二月五日(月)——二月十四日(水)
第二次三月十五日(木)——三月三十日(金)
每日午前十時より午後七時まで(日曜日を除く)
銓衡期日 第一次二月十五日(木)二月十六日(金)
第二次三月三十一日(土)四月一日(日)

第一中學校

募集人員 第一學年 二五〇名
出願期間 二月二十一日——三月五日
每日午前九時より午後三時まで(日曜日を除く)
銓衡期日 三月六・七・八日

關西大學學生募集

大學院

法学研究科—公法專攻・私法專攻 六〇名
文学研究科—英文學專攻・国文學專攻・哲學專攻 六〇名
経済学研究科—経済學專攻 五〇名

出願期間 三月一日—三月廿六日

試験期日 三月廿八日・廿九日

学部

学部	第一部	第二部	第三部	第四部	第五部	第六部	第七部	第八部	第九部	第十部
法学部	第一部(晝)	第二部(晝)	第三部(晝)	第四部(晝)	第五部(晝)	第六部(晝)	第七部(晝)	第八部(晝)	第九部(晝)	第十部(晝)
文学部	第一部(晝)	第二部(晝)	第三部(晝)	第四部(晝)	第五部(晝)	第六部(晝)	第七部(晝)	第八部(晝)	第九部(晝)	第十部(晝)
経済学部	第一部(晝)	第二部(晝)	第三部(晝)	第四部(晝)	第五部(晝)	第六部(晝)	第七部(晝)	第八部(晝)	第九部(晝)	第十部(晝)
商学部	第一部(晝)	第二部(晝)	第三部(晝)	第四部(晝)	第五部(晝)	第六部(晝)	第七部(晝)	第八部(晝)	第九部(晝)	第十部(晝)

出願期間

試験期日

第一部 一年 二月一日—三月十二日 三年 三月一日—三月廿九日
第二部 一年 二月一日—三月廿一日 三年 三月一日—三月廿九日
第三部 一年 三月十四日・十五日 三年 三月廿一日
第四部 一年 三月廿四日・廿五日 三年 四月一日

短期大學部

商工経営科 第一部(晝) 二〇〇名
第二部(夜) 二〇〇名

出願期間 二月廿日—三月廿四日

試験期日 三月廿六日

◎入學要覽

宛名明記郵券貼付の封筒に廿四小爲替同封各所在地に申込の事

大學院・學部

大阪府吹田市千里山
電話吹田123・461

短期大學部

大阪市大淀区长柄中通
電話堀川1756・2072—3・3332